

福岡

都市圏

▽都市圏総局
福岡市中央区天神1-4-1(〒810-8721)
☎092(711)5225 FAX092(711)6242
メールアドレス
tiiki@nishinippon.co.jp

▽博多まちなか支局
☎092(273)2988 FAX092(291)2700
▽福岡東支局
☎092(671)0622 FAX092(671)0676
▽粕屋支局
☎092(938)4901 FAX092(938)4926
▽福岡西支局
☎092(892)3386 FAX092(892)3387

▽筑紫支局
☎092(922)3363 FAX092(922)3564
▽宗像支局
☎0940(36)2102 FAX0940(36)2382
▽前原支局
☎092(322)2224 FAX092(322)2746
▽朝倉支局
☎0946(22)2029 FAX0946(22)2046

隠れた味、技術、歴史、名所…

筑紫野の宝 博覧会で光

「筑紫野の魅力にとっぴり漬かる」をキャッチフレーズに、筑紫野市商工会が12月4日まで、市内各所で「紫のまち博覧会」を催している。市名にある紫をキーワードにした地域おこし「紫プロジェクト」の一環で、2年目の今年は、今月1日から26種類の体験型日帰りツアーを実施。隠れた産業や名所を発掘し、新たな魅力を発信するという。どんな発見があるのか。ツアーをのぞいた。

■餃子教室

「ギョーザは底を大きく包めば早く焼けるし、おいしくなります」。筑紫野市永岡の食品製造卸会社「五十番食品」が開いた体験イベント「皮から手作り餃子教室&工場見学」(参加費千円)。女性10人がぎやかにプロの味を習っていた。

1974年に春日市で創業した同社は90年、現在地に移転。ギョーザや春巻きなど中華食材約200種を製造し、全国の有名中華料理店やホテルなどに卸す。年商約4億円。市販しておらず、まさに「筑紫野に眠るプロの味」(同商工会)。

博覧会には初参加で、2006年に5代目社長となった創業者の次女王愛さん(34)は「普段は接する機会がない消費者の声を聞きたかった」と話した。昨年、独自に工場見学や直売を始めたばかり。地域にアピールする絶好の機会になった。

参加した筑紫野市吉木のパート吉中由美子さん(45)は同社が月1回、規格外品などを格安で販売していると知り「ぜひ買いたい」と、お得な情報も得て喜んだ。

■集客効果

次は「筑紫野の文化財でつくるmyお守り」ツアー(弁当付き3千円)をのぞいた。

市内で表装専門店を営む熱海文俊さん(64)の指導で、九州最古の寺とされる武蔵寺(同市武蔵)の本尊を表す仏教文字「梵字」を切り抜き、紫色の金

市商工会 体験型ツアー実施

欄縋子で表装するという内容。市内外の10人が約3時間、熱心に作業した。

身に付けると厄よけになるという梵字は、武蔵寺など市内各所に碑が残る。梵字を現代的に表装した作品も制作する熱海さんは「筑紫野の土産品にしたい」との思いで、昨年に続いて博覧会に参加。手作りお守りを完成させた太宰府市の無職女性(33)は「武蔵寺などを訪れ、梵字をきちんと見てみたい」と話した。昨年の博覧会には県内から約650人が参加。博覧会を機に天拝山に登ったり、商工会が推奨する紫色の特産品を買い求めたりする人も多く、商工会は集客効果は十分」と強調する。

■飛び込み

博覧会の「パビリオン」に当

魅力発信、企業は自信

たる企業や団体は、会員か否かにかかわらず、商工会職員が市内の企業を飛び込みで訪問し参加を打診してきた。

今回、生産現場を開放する地元企業は、五十番食品のほか、日本で初めて馬油を商品化したという「薬師堂」(筑紫野市針摺東)や、新幹線の部品なども製作する「三松」(同市岡田)など、元氣な企業が並ぶ。

昨年の博覧会後、独自イベントで顧客拡大に動くなど、消費者目線を意識し、成長につなげようとする企業も出てきた。同商工会は約1800社が加盟。今後の博覧会の計画は未定だが、担当者は「発信したい魅力を持つ企業はまだある」。

溶接を体験できる「オトナの金属加工体験工房」。「ボク&ワタシ」の金属加工工場見学とオリジナル・マルチクリップづくり(いずれも19日)、「クリスマススタイルファッション装飾体験」(27日)など八つのツアーには空席がある。筑紫野の意外な魅力を見つけてみては? 同商工会☎092(922)2361。(井上真由美)



五十番食品で、プロのギョーザの作り方を習う参加者たち